

令和4年度事業計画

1. 理念

外なる自然の復元と内なる自然の回復

2. ミッション

- ・身近な自然環境を復元すること。
- ・自然体験を通じた豊かな感性と人間力溢れるヒトが育つ場を提供すること。

3. 事業計画

(1)環境教育及び環境人材の育成に係る活動

①環境再生医(資格認定講習)

中長期計画(3年後/2021年度スタート～2024年度ゴール)

取組内容	目標数値
資格認定講習の開催数増加	年3回開催(NAREC2回+外部1回)
資格認定講習の受講者数増加	120人/年(NAREC100人+外部20人)
資格認定講習の受講者満足度維持	100%(アンケート結果)
継続学習企画(一般資格取得者向け)の開催	毎月定期開催
環境保全学習企画(非取得者向け)の実施と収益化	¥30万/年(30人×年¥1万)
交流会の開催	年2回開催(オンライン1回・対面1回)

R4年度方針

- ・新制度での資格認定制度の運営の効率化。
- ・取得後の活性化と資格取得メリット拡大のため、一般講習取得者向けの企画(勉強会等)を実施する。
- ・公式テキスト改訂をスタートする(改訂については、別途、会長を中心に編集委員会を開催する)

R4年度計画(目標数値)

■資格認定講習

- ・開催数:1回(2023年1月に開催予定)
- ・受講者数:60人(2021年度実績73人×82%)(2020年度実績37人×162%)
- ・開催時期:1~2月(2回開催の場合は、8~9月に開催)
- ・受講者満足度:100%(アンケートで満足、とても満足の合計)
- ・内容:新制度での実施と改善
- ・形式:オンライン開催
- ・運営:効率化および事務局体制の整備(新スタッフへの共有など)

■テキスト

- ・改訂を実施(第4版)※R5年度試験より活用を目標

■継続学習

- ・一般取得者向け:1企画

令和4年度事業計画

②認定校

中長期計画(3年後/2021年度スタート～2024年度ゴール)

取組内容	目標数値
認定校での取得者数増加	500人/年
認定校との関係維持	50校(2020年度実績35校)
新規の認定校数の増加	毎年3校(学部含む)
継続学習企画(認定校資格取得者向け)の実施	毎月定期開催
取得者数増加企画(学生直アプローチ)の実施	2企画

R4年度方針

- ・認定申請対応の効率化および事務局体制の整備(新体制での安定化)
- ・認定校取得者層が活性化する企画(勉強会等)を実施する。
- ・認定校との個別連携強化につながる企画(ガイダンス等)を実施する。
- ・認定校との連携強化(関係維持・回復、新規獲得など)につながる企画(勉強会等)を検討する。
- ・認定校(&非認定校含め)の学生に直にコンタクトできる関係作り企画(大学や先生経由ではなく)を検討する。

R4年度計画(目標数値)

■認定者数

- ・200名(昨年実績220人)

■認定校

- ・関係継続:37校(昨年実績同様)
- ・関係回復:1校
- ・新規:発生ベースで対応(コロナ禍のため目標値は設定しない)
- ・連携強化:1企画試行(例:認定校学生×若手再生医)

■認定校取得者活性化

- ・試行:1企画(例:勉強会など)

令和4年度事業計画

③質の向上

中長期計画(3年後/2021年度スタート～2024年度ゴール)	
取組内容	目標数値
社会認知度の向上	2番目(環境資格人気リスト、非環境分野でも取得可能資格、Eco検定の次あたり)
認定校受託案件の増加	5件
中間支援案件(マッチング等)の増加	5件

R4年度方針

- ・認定校受託案件や中間支援案件につながる情報収集(認定校実習等実施状況不明のため)。

R4年度計画(目標数値)

- 認定校からの実習や特別授業などの有償案件を受託する(目標数値の設定はなし。発生ベースで対応する)
- 再生医×認定校、再生医×再生医などのマッチング案件等を模索する(目標数値の設定はなし。発生ベースで対応する)

④管理(更新・再登録)

中長期計画(3年後/2021年度スタート～2024年度ゴール)	
取組内容	目標数値
更新率の増加	70%

R4年度方針

- ・R4(2022)年度対象者については前年度同等の取組を行う。
- ・新制度での更新方法(更新制度有無も含め)を決定する。
- ・更新するメリットにつながる企画(継続学習、資金確保、人材確保、有償案件紹介等)を試行する。

R4年度計画(目標数値)

- 更新率(対象者数43人)
50%以上(更新者数22人)

令和4年度事業計画

(2)身近な自然環境の保全・復元・維持管理に係る活動

中長期計画(3年後)	
取組内容	目標数値
参加機会の増加	年間活動回数を70回以上に増加し、新規フィールドを10箇所増加する。
リーダーの育成強化	各活動エリア(都府県)に4名以上のリーダー・サブリーダーが登録・実働している。
助成金以外での運営資金の確保	企業の協賛・受託事業等から年間合計300万円以上の資金確保をする。その内、60%以上は継続で協賛・受託を受けている状態にする。
プロジェクト運営強化	各活動エリア(都府県)のリーダーやコアメンバーの内、1名以上が運営へ参加する体制を作る。

R4年度方針
<ul style="list-style-type: none">・令和3年度は、COVID-19の感染防止対策を行いながら、レンジャーズプロジェクトの活動を開催した。・野外活動への需要も高まっており、毎活動の募集開始後、すぐに定員に達することが相次いでいる状況であり、定員オーバーにより参加できない人も多い。このため、更なる実施回数と活動場所の増加を図り、参加機会を創出する必要がある。・令和4年度は、引き続きリーダー育成強化と資金調達を推進し、新規フィールドと活動回数の増加を目指す。・リーダー育成強化では、大学生リーダーの登用を目的とした企画を行う。・資金調達では、継続的な資金獲得を目指す。・その他、参加者のターゲット層(若い世代)への訴求や企業協賛獲得に向け、レンジャーズプロジェクトホームページのリニューアル等を行う。

R4年度計画(目標数値)
<ul style="list-style-type: none">■レンジャーズプロジェクト 60回(8月は休止)■リーダーの育成・登用 オンラインにて、レンジャーズ説明会・リーダー説明会を8月に開催 大学生限定レンジャーズ等の大学生企画を行い、大学生リーダーの登用も目指す■資金調達 企業協賛、寄附、受託事業等で合計200万円の資金獲得を目指す■新規フィールドの増加 関東地方、関西地方で合計3箇所以上の新規フィールド増加を目指す■広報の強化 レンジャーズプロジェクトのホームページリニューアル作業を引き続き行う。■SDGsの具現化 具体的な数値目標を設定し、具体的な取り組みを始める。■業務の簡易化 業務の簡易化を図り、ボランティアやインターン生が運営に参加できるような業務内容にする。■他事業との連携 ふるさと未来創造プロジェクトと連携した活動を行う。

令和4年度事業計画

(3) 農山漁村の活性化及び環境保全型農林業に係る活動

中長期計画(3年後)	
取組内容	目標数値
<p>■グリーンツーリズム事業化支援</p> <p>農林水産省「農山漁村振興交付金」等を活用し、農村内での支えあいを創出するようなグリーンツーリズム事業化伴走支援を複数個所で行う。</p> <p>また、グリーンツーリズム事業化への強い意志をもった人を見つけるための学習会を開催する。</p>	<p>(定性目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地キーマンの意欲の向上へ寄与している状態 ・関係人口の増加へ寄与している状態 <p>(定量目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6か所
<p>■環境人材育成合宿の試行・学習</p> <p>都市と農村の支えあいを創出するよう、地域の自然・人・生活・生業を知り、交流を深めて次へのアクションを考える学生向けの学習会を開催する。</p> <p>なお、(環境再生医の認定試験での告知など)環境教育委員会と連携し、環境再生医の認定試験での告知など認定校制度との相乗効果も狙う。</p>	<p>(定性目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6地区でインタープリターが育成されている <p>(定量目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏1回、冬1回開催
<h4>R4年度方針</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村では生物多様性の第2の危機である人間活動のインパクトの減少によって里地里山の動植物が絶滅の危機にさらされている。 ・この要因の一つとして、農山漁村の自然環境を保全している環境保全型農林漁業者が営みを継続できないことから事業の撤退や縮小が挙げられる。 ・このため、環境保全型農林漁業者へグリーンツーリズムの事業化伴走支援を行うことで持続性を確保したい。 ・グリーンツーリズムの事業化伴走支援を通して繋がりができた地域において、自然体験・原体験の機会を若者へ提供することで、地方や自然環境に関わる価値感の向上へ寄与する。 ・このため、観光ガイド本には載っていないような、地域の人と触れ合い、地域のものを食べ、地域の自然に触れ、Next Actionを含めた教育要素を備えた環境人材育成合宿の事業化を模索する。 	
<h4>R4年度計画</h4> <p>■グリーンツーリズム事業化支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産省「農山漁村振興交付金」にて4協議会の事業化伴走支援を行う。(木繋プロジェクト、Greenschool Yakushima、市原、松崎町) ・NARECとして提供できる業務の見直しを行い、パッケージをつくる <p>■環境系学生未来塾の事業化の模索</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度実施の環境系学生未来塾 in 泰阜村の結果を踏まえ、事業化を模索する。 ・すでに未来塾を実施している hub&Labo Yakushima(鹿児島県屋久島町)、株式会社森と人と(大分県耶馬溪町)と協力し、事業化に向けて実施する ・関係人口創出・拡大のための対流促進事業に公募する 	

令和4年度事業計画

(4)社会啓発や情報発信等に係る活動

中長期計画(2年後)【平成3年度から継続】	
取組内容	目標数値
会員サービスとして情報共有の場をつくる	ニュースレターを紙媒体から HP 上に移行。会員ページを作成し、会員の情報共有の場として活用する
ニュースレターの経費削減	年3回分の印刷・発送費0円(6万×3回)→HP 改訂費、PR ツール増等に充てる
ニュースレターの PR ツール化	年次報告書のみ年間活動報告書として作成、協会の PR ツールとしてわかりやすく見やすい内容への変更を検討する
関連学会との連携	関連学会との交流により、ニュースレター等で学術情報を共有し、内容の充実を図る
「全国環境再生医の会」、「全国レンジャーズの会」の立ち上げ	関係人口とその活動を全国的に広げ、会員または会費増につなげる。非会員(環境再生医・レンジャーズ)にも積極的に勧誘活動を行う

R4年度方針
<ul style="list-style-type: none"> ■ニュースレターを紙媒体から、HP 上に移行。会員ページを作成、ニュースレターの掲載をし、周知をはじめる。【継続】 ■「全国環境再生医の会」、「全国レンジャーズの会」の立ち上げに向けて検討・募集準備。【継続】 ■普及啓発のために「自然環境復元学会」、「日本櫻学会」ほか関連学会との連携調整推進。【継続】。

R4年度計画
<ul style="list-style-type: none"> ■年 3 回(秋・冬・春号)ニュースレター発行、年 1 回(夏号)ニュースレター+年次報告書発行。【継続】 ■HP 上に会員ページ(パスワード設定あり)作成。【継続】 都道府県別の会員氏名の掲載準備。 ニュースレターを順次掲載。(しばらくは紙媒体と並行活用、ML でも通知)。 ■会員内での「全国環境再生医の会」及び隊員内での「全国レンジャーズの会」への参加希望を募る告知方法(HP 等)を検討。【継続】 ■「日本櫻学会」との協働の実現。 ■公開講座(オンライン)の試行。

※平成3年度事業は、担当職員への事務部門全域に亘る仕事の集中と、さらに突然の勤務形態の変更から、「ニュースレター」以外の仕事は手つかずの状況で終わっている。

平成4年度も、計画としては前年同様に掲げるが、時間的な困難から事務部門の引き継ぎが不十分なため、「ニュースレター」の発行が滞らないことを主におき、余力があれば順次進めることとしたい。